



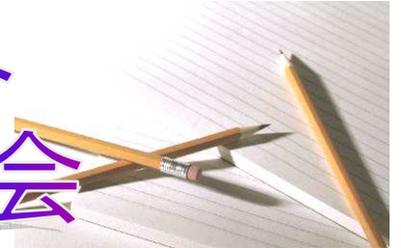
泉丘SSHだより



第10号 H23.12. 6
編集：SSH推進室
発行責任者：村澤 勉

石川県立金沢泉丘高等学校

AIプロジェクト 校内研究発表会



11月18日の金曜日に、2年理数科生徒たちの4月から行ってきた課題研究の発表会が開催されました。これまで研究してきたものをわずか10分間にまとめて発表するのに苦労した班が多く、毎日遅くまで作業をした班もありました。研究内容や成果をどのようにまとめ、どのようにわかりやすく発表すればよいか、プレゼンテーションをすることの難しさや意義等をたくさん学んだことと思います。以下に発表会の様子を紹介します。



開会挨拶



会場の様子



司会・計時(前半)



司会・計時(後半)



The Circle Constant “ π ”



素数の性質について



ループの研究



微生物の有用性



放射線の研究



クロモトロピズムの研究



数学の問題を作る



泡の科学



質問



講評



講評



講評

発表会后、12月15日(木)に行われる石川県SSH生徒研究発表会の代表選考が行われました。その結果、
「素数の性質について」と「クロモトロピズムの研究」
が本校代表に決定しました。

大学の先生方による助言・講評等

- 「数学の問題を作る」のように、通常とは別のアプローチをとることで新発見が得られることがある。また、数学では、いかに新しい問題を作るかが重要であり、昨年度解明されたフェルマーの定理のようにまだまだ自然界には解き明かされない現象があるので、ぜひ頑張ってほしい。
- おもしろい研究内容をいかにわかりやすく説明するかが大切である。また、何を提示すれば説得力がある内容になるかも重要であり、実験の再現性などを、将来研究者になる人は大切にしてください。
- 生徒がもっと質問をするとよい。そのほうが楽しい発表会になる。
- JSTの課題研究のデータベースを有効活用し、研究テーマ決めやさらなる研究のレベルアップに利用してほしい。→ <https://ssh.jst.go.jp/research/list>
- 「放射線の研究」にもあったように、研究は地道な計測ばかりで大変である。しかし、簡単に解明されるものはおもしろくない発見であるから、今回、研究は地道な努力が必要であることが分かっていい経験になったと思う。

コスモサイエンス I

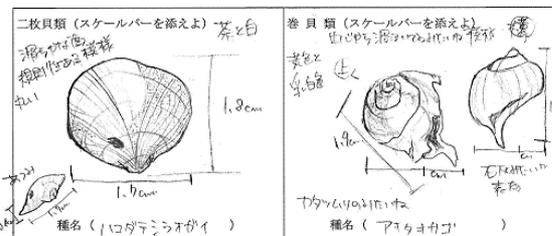
コスモサイエンス I が始まり 2 ヶ月が経ちました。おおよそ半分の日程が終了したことになります。これまでの研修内容を簡単に紹介します。



10月 7日 地学巡検 犀川河川敷の大桑化石壁で貝化石を採取し、同定
本校教諭 澤田先生



生徒のスケッチ



10月14日 特別講義「夢に向かってもう一步」
元日本宇宙フォーラム参与 寺門先生



10月28日 石川県立大学での研修
「電気泳動法による DNA の分離・検出」
石川県立大学 中谷内先生



11月3日 ガラス管細工
スポイト、L型管、マドラーを作成
本校教諭 入道先生



11月25日 北陸大学薬学部での研修
「アミノ酸とホルモンの講義・実験」
北陸大学 加藤先生、佐藤先生



残りの研修も積極的に学習しましょう！

